空襲警報 一日何回も

クロアチアから緊急帰国し、現地の緊迫した様子を話す本所さん（右）と米山さん＝岡山市橙津、AMDA本部

クロアチアで活動のNGOスタッフ

緊迫の現地情勢 AMDA(岡山)に報告

クロアチアのセルビア人支配地域などで救援活動中、戦火の激化に伴い緊急帰国したNGO（非政府組織）グループ・JEN（日本緊急救援NGOグループ、菅波茂代表）の日本人スタッフ二人が十一日、JENの構成団体の一つ・アジア医師連絡協議会（AMDA、本部・岡山市橙津）に戻り、緊迫した現地の様子を報告した。

岡山市伊福町、保母本所明美さんと倉敷市林、大学院生米山美加さん(三四)。本所さんは昨年六月から、クロアチア東部のJEN事務所で、難民受け入れ施設の改修や病院への医療器具支援などの活動を展開。米山さんは今年五月から、クロアチアやセルビア国内で、JENによる各種支援事業に対する難民側の希望を調べたり、今後の実施計画策定に携わっていた。

今月四日のクロアチア国軍の総攻撃開始以降、同国軍と国内のセルビア人勢力との間で、戦闘が一気に激化。「事務所周辺には兵士があふれ、一日に何回も空襲警報が鳴った。セルビア人支配地域周辺で二日千発の爆弾が投下された、との情報が入った日もあった」という。現地状況の悪化で、JENは急きょ、クロアチアからの撤退を決定。二人は「荷物をまとめる間もなく」九日に一時帰国し、情勢が落ち着くまで待機することになった。

「戦闘が起きる度に多数の難民が出る。家を失ったり精神的にダメージを受けるなど、未来に希望を持てない人も多くいる」と本所さん。米山さんは「難民や被災民の悲しみは、国や民族に関係ない。私たちは客観的な立場から、クロアチア問題を考えなければならない」と訴えた。

JENは今後も状況を見ながら、セルビア人支配地域などで活動を再開することにしている。